

PRIMUS® P-153

プリムス・ウルトラバーナー カートリッジガスこんろ(直結型)

屋外使用専用

取扱説明書

注意

●この製品はアウトドア用に開発された屋外使用専用の直結型カートリッジガスこんろです。●ご使用中は大量に酸素を必要としますので屋内、車内、テント内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死する危険性があります。●屋外であっても換気の悪い場所(洞窟、窪地等)では十分に注意してご使用ください。●使用中、使用直後は器具が大変熱くなっておりますので、火傷には十分ご注意ください。また、お子様が手を触れないようご注意ください。●キャンプ等で実際にご使用になる前に必ず器具と容器(ガスカートリッジ)が正常に動作することを確認してから持参してください。●圧電点火装置はご使用になる環境によってはうまく動作しない場合があります。実際の山行やキャンプでは、念のため、必ず予備のマッチやライター(電子着火式でないもの)を携行してください。●P-153は1~3人用を想定して設計されていますが、大型の鍋やヤカン等は使用できません。必ず小型のコップル等でご使用ください。●過酷な使い方、特殊なご使用をされますとケガや火災など思わぬ事故の原因となったり、本体が焼損する恐れがあります。

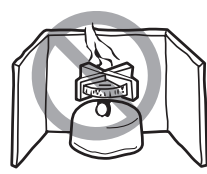
この度は、プリムス・ウルトラバーナー(P-153)をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。本製品の機能を十分にご理解いただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みいただいた後はいつでもご覧になれる場所に保管してください。また、ご使用になる前に容器(ガスカートリッジ)に表示されている注意事項も必ずお読みください。

■本製品をご使用いただく際に、特に注意していただきたいこと

警告



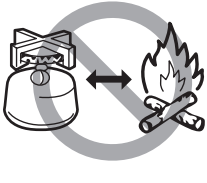
本製品は屋外専用です。屋内、テント内、車内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死する恐れがあります。風通しが良く、周囲に引火物・可燃物のない場所でご使用ください。



バーナーを市販の風防、天ぶらガードや石などで絶対に囲まないでください。排熱が滞留し、ガスカートリッジが加熱され爆発する危険があります。



市販のセラミック製品や鉄板、焼き網などをシングルバーナーに絶対に使用しないでください。輻射熱が下方にも放出しガスカートリッジが加熱され爆発する恐れがあります。また、スモーカー(燻製器)にも使用しないでください。



火気の近くでは使用しない。火気や熱源からの輻射熱により、ガスカートリッジが加熱され、爆発する危険があります。



引火物、可燃物の近くで使用しない。引火や加熱により爆発する恐れがありますので、必ず2m以上離して使用してください。また、防水スプレー、殺虫剤などのエアゾール製品も引火の危険があるので絶対に使用しないでください。



ガスカートリッジの装着は器具を垂直に、また締めすぎないように行ってください。斜めに傾けているとガスが勢いよく噴出し危険です。また、ねじ込む際に過大な力で締め込むとガス漏れや故障の原因となります。



火をつけたまま側を離れない。本製品に火をつけたまま側を離れると思わぬ事故の原因となりますので、必ず消火してから離れるようにしてください。特にお子様がいるそばでは十分にご注意ください。

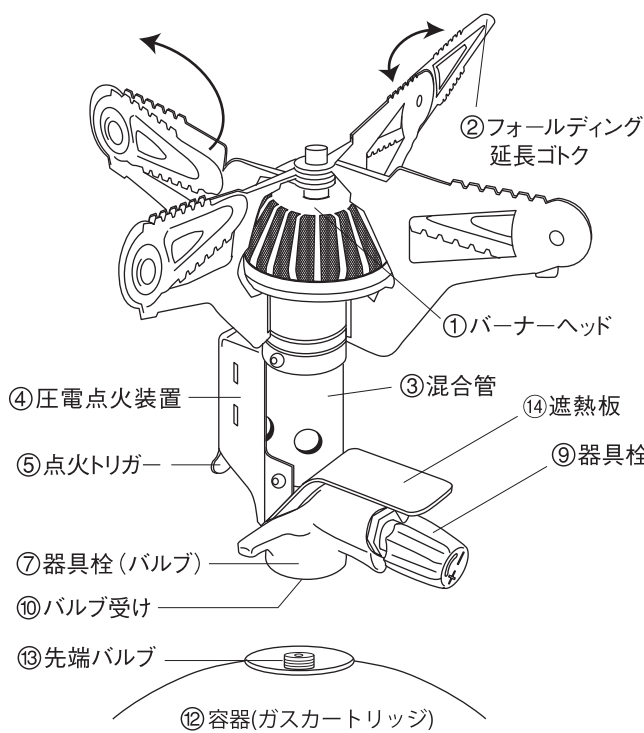


バーナーをこんろ以外の目的に使用しない。本製品は暖房器具ではありません。暖房や衣類の乾燥など、本来の使用目的と異なった使い方は思わぬ事故(火災、一酸化炭素中毒死、窒息死等)につながる恐れがあります。

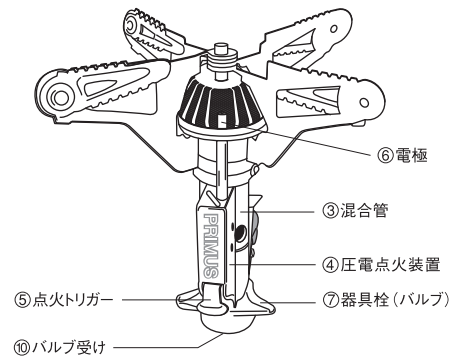
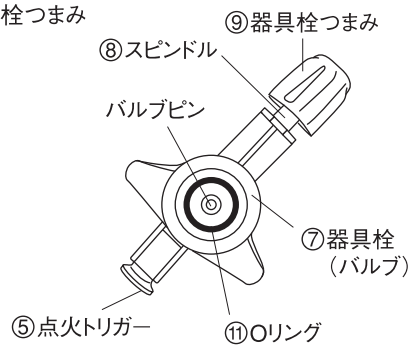
ガスの性質について

ガスは液体から気体に変化する時に気化熱を必要とします。従って低温時や、液体ガスの温度が外気温を下回った場合、気化熱を得られなくなるため、カートリッジ内に残ガスがあっても「火力が弱い」「ガスが出てこない」という現象が発生します。その場合の対処法としてガスカートリッジを体温で温めたり、新しいガスカートリッジに交換することで使用できる場合がありますが、目的地の外気温に合ったガスカートリッジを持参いただくことをお勧めします。Gタイプ(春夏用:20℃以上)、Tタイプ(オールシーズン:0℃以上)詳しくは当社ホームページをご覧ください。 <http://www.iwatani-primus.co.jp/products/primus/index.html>

各部の名称と働き



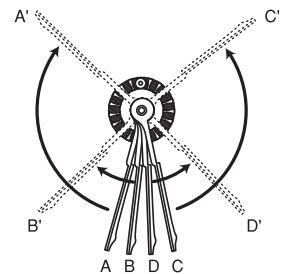
名称	働き
①バーナーヘッド	空気と混合されたガスを燃焼させる部分
②フォールディング延長ゴトク	折り畳んで収納可能なゴトク
③混合管	ガスと空気を混合させる管
④圧電点火装置	圧電式の点火装置
⑤点火トリガー	圧電火花を飛ばすための点火操作レバー
⑥電極	圧電火花をスパークさせる部分
⑦器具栓(バルブ)	ガスを調節・遮断する弁
⑧スピンドル	ガスを調節・開閉するつまみ軸
⑨器具栓つまみ	ガスを調節・遮断の操作をするつまみ
⑩バルブ受け	ガスカートリッジを接続する受け口
⑪Oリング(O-RING-4)	ガスカートリッジと器具をシーリングするパッキン
⑫容器(ガスカートリッジ)	ガスが充填されている容器(別売)
⑬先端バルブ	器具を接続するためのカートリッジ側バルブ
⑭遮熱板	器具栓つまみを燃焼熱から遮断する板



器具の使用方法

器具の組み立て

こんろ本体を収納バッグから取り出し、4本のゴトクを右図のようにそれぞれ「カチッ」と止まるまで広げてセットします。次に延長ゴトクを手前に回転させて広げてください。シェラカップ等、小さな鍋を使用する場合は、延長ゴトクを折りたたんだ状態のままでも使用できます。



容器(ガスカートリッジ)の装着方法

1. 容器のキャップを外します。取り外したキャップは保管の際に必要ですので捨てないでください。
2. こんろ本体の器具栓つまみを右（マイナス方向）に回し、完全に閉じていることを確認してください。
3. 容器（ガスカートリッジ）先端バルブとこんろ本体のバルブ受けにそれぞれゴミ等が附着していないか確認してください。ゴミ等がある場合は取り除いてください。
4. 容器先端バルブがこんろのバルブ受けに入るよう垂直に正しくセットしねじ込みます。この時、無理にねじ込まず、容器を回して自然に止まるよりややきつめにねじ込んで止めてください。また、容器は斜めにしないで必ず正立の状態です器具を取り付けてください。
5. 容器の装着が完了したら、必ず器具が水平になる場所に設置してご使用ください。

注意

容器(ガスカートリッジ)内部は気層と液層に分かれており、通常は気層から出るガスを空気と混合し燃焼させます。ガスの残量確認のために容器を振ったり、落下等の衝撃を与えた後は、この気層と液層が不安定になり、こんろを取り付けて器具栓を開いた時に、液状のガス(白い霧状の気化していないガス)がそのまま噴出することがあります。この液体のガスに着火しますと非常に大きな炎となり大変危険です。その場合は一旦消火して容器を平たんな場所に置き、2~3分ほど放置して容器内の気層と液層を安定させてからご使用ください。

操作のしかた

- 点火：器具栓つまみを左（プラス方向/時計の逆回転方向）へゆっくり回しながら点火トリガーを手前に押すか、ライター等でバーナー部に点火します。圧電点火装置はトリガーを押すことで放電しますが、一度で着火しない場合は続けて数回操作してください。

警告

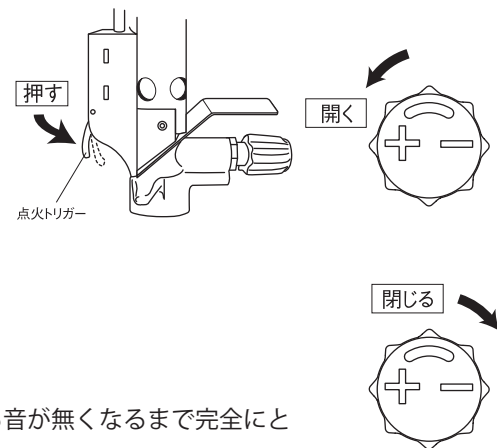
点火の際は、バーナーを上からのぞき込まないでください。燃焼炎により顔に火傷を負う危険があります。



注意

点火装置には耐熱性の素材を使用しておりますが、外気温が高い時や風が強いとき、また、風向きによっては炎が点火装置まで回り込み、点火装置を溶かしてしまうことがあります。点火装置側を風上にするか、炎を若干しぼってご使用ください。

- 消火：器具栓つまみを右(マイナス方向/時計の回転方向)へ回し、火が消え、ガスが出る音が無くなるまで完全にとじてください。この時、確実に消火したことを確認してください。



■収納方法

1. 使用後は器具が熱くなっておりますので、収納する場合は必ず本体が十分冷めるまで待ってから行ってください。
2. 器具栓が完全に閉じていることを確認し、器具から容器を取り外します。次に、それぞれのゴトクを中心部(器具栓つまみ上の位置)に向けて回転させ収納してください。

□異常時の処置

- 万一、異常燃焼を起こした時や緊急の場合は、あわてずに器具栓つまみを閉じて消火してください。また、そのまま使用せず、即座に使用を中止してください。

□故障・異常の見分け方と処置方法

故障かなと思ったら……次のことをお調べください。

原因	故障・異常							処置方法
	点火しない(ごく弱い)	バーナーに火移りしない	点火火花が飛ばない	炎が不揃い	火力が弱い	使用中に消火する	消火しない	
ガスが少なくなっている	○	○			○	○	容器を新しいものと交換する	
バーナーの目詰まり	○	○		○	○	○	金属ブラシ等で詰まりをとる	
ノズルの目詰まり	○	○			○		点検・清掃を依頼する	
点火電極間距離の不適切	○		○				点検修理を依頼する	
点火器の絶縁不良	○		○				点検修理を依頼する	
点火電極の酸化	○		○				点検修理を依頼する	
点火操作が不適切	○		○				正しい操作を行う	
器具栓の故障	○	○					○* 点検修理を依頼する	

上記のことをお調べの上、なお異常がある場合や、お分かりにならないときは、お買い求めの販売店または当社までご連絡ください。

※周囲の安全に注意してガスが無くなるまで燃やし続けてください。この時、突然爆発する危険もありますので、周囲の人を避難させ、安易に近づかないようにしてください。火力が増す場合や周囲のものに引火した場合は、放水や消火器による消火などの緊急処置をとってください。事後、販売店または当社にご連絡ください。その際、こんろとガスカートリッジは処分せず保管しておいてください。

□日常の点検・手入れ

- 必ず定期的に器具の点検・手入れを行ってください。
- 実際に登山やキャンプ等へお出かけになる前に、器具と容器を接続して正常に動作することを確認してください。また、この点検は必ず屋外で行ってください。
- 本体が雨または夜露で濡れた時や煮こぼれした時は「着火しない」「正常に燃焼しない」場合があります。特にバーナーヘッドの中まで水分が入ってしまった場合は着火しませんので、ご使用になる前に乾いた布等で水分を取り除き、十分乾燥させてからご使用ください。
- 器具栓にあるOリング(ゴムパッキン)は消耗品です。経年劣化等で弾力がなくなりシール性が弱くなると、ガスカートリッジ接続時のガス漏れの原因となります。定期的に点検し、亀裂や摩擦等で老朽化している場合は速やかに、また通常の場合は1~2年に一度を目安に交換してください。Oリングの交換につきましてはお買い求めになった販売店もしくは当社にご相談ください。
- 故障または破損したと思われる場合は即座に使用を中止して、お買い求めになった販売店もしくは当社まで点検を依頼してください。
- 実際の登山やキャンプでは、不測の事態に備え、予備の器具やガスカートリッジをご用意ください。
- お客様自身による修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店もしくは当社にご相談ください。

□長期間使用しない場合

- 長期間使用しない場合は、各部の汚れを取り、付属のバッグに入れて湿気の少ない場所に保管してください。
- 取り出した容器(ガスカートリッジ)は、キャップが付いていることを確認してから、風通しの良い40℃以下の場所に保管し、時々点検して、缶にサビが発生している場合にはできるだけ早く使用してください。
- 器具本体と容器(ガスカートリッジ)を接続したままの状態での保管は絶対にしないでください。
- 長期保管後に器具を再使用する場合は、必ず器具が正常に動作することを確認してください。部品の劣化等で使用に問題がある場合は即座に使用を中止し、お買い求めになった販売店もしくは当社にご相談ください。

□仕様

品名	カートリッジガスこんろ(直結型)
型式名	P-153
ガス消費量	245g/h
燃焼時間	約55分(IP-250タイプガス使用時)
最大出力	4.2kW/3,600kcal/h(Tガス使用時)
収納寸法	7.5 x 8.8 x 3.0cm
ゴトク径	最大: 148mm 最小: 90mm
重量	116g(本体 104g + 点火装置 12g)
点火方式	圧電点火装置
使用容器	IWATANI-PRIMUS「IP-250」「IP-500」

原産国：日本

□アフターサービス

- お買い求め頂きました製品には万全を期しておりますが、万一不備な点がございましたら、お買い求めになった販売店もしくは下記までご連絡ください。
- この製品には生産物賠償責任保険が付いています。但し、他社製のガスカートリッジを使用した場合、再充填されたガスカートリッジを使用して発生した事故につきましては補償の対象外となります。
- 製品の部品保有期間は、製造を終了した時点もしくは当社カタログの掲載が終了してから5年間となります。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

□経年劣化について

本製品のガスの接続部にはゴム部品が使われています。ゴム部品は使用の頻度に関わらず、年月とともに劣化していきます。製品お買い上げ後、10年を目安にお買い替えをご検討くださいますようお願い申し上げます。

□連絡先

イワタニ・プリムス株式会社
www.iwatani-primus.co.jp

〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-12-20
TEL:03-3555-5605 FAX:03-3555-5674

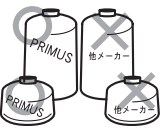
特に注意していただきたいこと

このページにはプリムスの燃焼器具(全般)をご使用になるための重要なことが説明されています。

ご使用前に

警告

各燃焼器具にはIWATANI-PRIMUSまたはPRIMUSの表示のある「IP-250」もしくは「IP-500」の専用容器(ガスカートリッジ)を使用してください。その他の容器(ガスカートリッジ)は絶対に使用しないでください。



なぜ? 専用ガスカートリッジ以外の容器はガスが出るバルブの形状、ノズルの太さ等規格が異なります。この基本設計の違いにより、他のガスカートリッジを使用されますとガス漏れが発生したり、ガスに引火したり、火災事故につながる場合があります。

焼けた砂(砂浜)や河原の上や舗装道路面等では使用及び放置しないでください。



なぜ? 炎天下の焼けた砂浜や河原、舗装路面は非常に高温になっています。ここにガスカートリッジを直接置きますと、ガスカートリッジが加熱されカートリッジ内部の圧力が急激に上がることで、爆発することがあります。

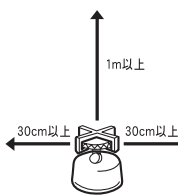
各燃焼器具は屋外専用です。屋内、テント内、車内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死します。



なぜ? プリムス製品は、屋外での使用を前提に設計されています。使用中は酸素を大量に消費するため、屋内で使用されますと一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死します。また、火災の危険性もあります。

注意

燃えやすいものから上部は1m以上、周囲30cm以上離して使用してください。



なぜ? 風によって強力な火力は周囲に影響を与える範囲も広くなります。特に上方向には相当な熱が昇りますので周囲に十分注意を払ってご使用ください。また、テーブルでご使用になるときは、テーブルクロス、ビニールクロス等を使用しないでください。火災事故につながる場合があります。

ガスカートリッジの装着はバルブを垂直に、また締めすぎないように行ってください。



なぜ? 新品のガスカートリッジには液状のガスが上部まで入っています。従って、斜めに傾けて取り付けますと液状のガスが勢よく噴出しますのでとても危険です。必ず周囲に火気がないことを確認して、垂直に取り付けてください。カートリッジと器具を接続するネジはとても大切な部分です。斜めに無理にねじ込んだり、過大な力で締め込みますとガス漏れや故障の原因となります。

バルブ(器具栓)内のOリングは、時々点検し、切れ目があったり摩耗や劣化している場合は新しいものと交換してください。



なぜ? カートリッジと器具を接続する部分にはOリングが使用されています。Oリングは取り付け取り外しをしているうちに摩耗したり、古くなって弾力が無くなりシーリング能力が低下し、ガス漏れが発生する場合があります。

ご使用中

警告

バーナーでの炭の火起こしは絶対にしないでください。



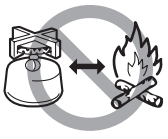
なぜ? バーナーを炭の火起こしに使用しますと知らないうちにガスカートリッジを加熱していることになり、爆発を引き起こす危険性があります。

1つの調理器具に2つ以上のバーナーを使用しないでください。(片側のみ使用の場合は特に危険です。)



なぜ? バーナーを2つ以上組み合わせると、お互いの燃焼炎でカートリッジを加熱しあったり、炎の巻き込みで熱が滞留することになり、カートリッジ内部の圧力が異常に上昇し爆発することがあります。

周囲に引火物、可燃物がないことを確認し、器具と容器(ガスカートリッジ)の取り付け取り外しは、必ず器具栓つまみが閉じていることを確認してから行ってください。



なぜ? カートリッジと器具を取り付けたり、取り外しするときは多少ガスが漏れます。周囲に使用中(燃焼中)の器具があったり、焚き火、タバコ等火気があると引火する危険性があります。また、器具栓が開いているのを知らずにガスカートリッジを取り付けますと、いきなりガスが噴出して引火する危険性もあります。

市販のセラミック製品や鉄板、網などをシングルバーナーに使用しないでください。また、スモーカー(燻製器)にも使用しないでください。



なぜ? セラミック製品、鉄板、網などの調理器具やスモーカーは放射熱が多く、熱が滞留しやすくなっています。バーナーで使用されますと、直結型の場合は放射熱が直接ガスカートリッジにあたるためガスカートリッジが加熱され、内部の圧力が上昇し、爆発することがあります。分離型の場合でも器具を焼損させることがあります。また、スモーカーもガスカートリッジを加熱したり、器具を焼損させる危険性があります。

バーナーを市販の風防、天ぷらガードや石などで絶対に囲まないでください。



なぜ? バーナーとガスカートリッジを風防や石などで囲みますと熱が滞留しカートリッジが加熱されてしまいます。カートリッジが加熱されると内部の圧力が異常に上昇するため、爆発することがあります。

火がついたまま持ち運ばないでください。また、容器(ガスカートリッジ)をつけたまま保管することは絶対にしないでください。



なぜ? 火がついたまま持ち運ぶと、ガスカートリッジが揺られて異常に炎が大きくなり、火傷する危険があります。また、保管中にショックが加わることでガス漏れの発生、また長時間カートリッジと器具を装着状態にしておきますと、ガスカートリッジ接続部にサビが発生しガス漏れが起こり、火災が発生する場合があります。

注意

必ず平たんな場所に水平に設置して使用してください。



なぜ? コップや鍋などが滑り落ちたり、器具の転倒の原因になります。

こんろをこんろ以外の目的に使用しないでください。



こんろは暖房器具ではありません。

なぜ? こんろを衣類の乾燥や暖房の目的など、本来の使用目的と異なった使い方は思わぬ事故(火災、酸欠による窒息死、一酸化炭素中毒死)につながる場合があります。

保管および点検

警告

たとえ空になっても、容器(ガスカートリッジ)を火気や熱源(ヒーター、こんろ、ストーブ等)のそばに置かないでください。



なぜ? 空になったカートリッジでも微量のガスが残っています。これを火の中に投げたり、熱源の近くに置きますと、容器の内部圧力が上がり、爆発する危険性があります。

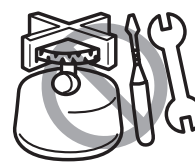
注意

容器(ガスカートリッジ)は40℃以下の場所で保管してください。(法律によって規定されています。)



なぜ? 外気温が上昇するとカートリッジ内の圧力も比例して上昇します。カートリッジを炎天下に放置したり、直射日光に当たる車内(トランクルーム含む)や室内に放置することも爆発の原因になります。

お客様による修理や改造は絶対にしないでください。



なぜ? ガスの流れる部分は非常に精密に作られています。器具の改造は能力の低下になるばかりではなく、不完全燃焼、異常燃焼、ガス漏れ等事故の原因にもなりかねませんので絶対にしないでください。修理に関しては販売店弊社等にご相談ください。

表示内容

警告: 誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを表す記号です。

注意: 誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される、および物的損害のみの発生が想定されることを表す記号です。

禁止マークです。